

平成30年度第1回高幡地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成30年9月7日（金） 13：30～16：00

場所：須崎市総合保健福祉センター 2階 大会議室

出席：委員21名中、17名が出席（代理出席4名含む）

議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

(2) 地域アクションプランについて

1) 第3期高幡地域アクションプランの進捗状況等について

2) 追加・修正等の案件について

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進の取り組みについて

2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事(1)(2)(3)について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

(2) 地域アクションプランについて

(No. 32 津野町地産地消・外商販売戦略)

(松下委員)

「満天の星」について、売上における一番のメインを挙げるとすると何か。

(森田地域産業振興監)

一番有名な「ほうじ茶大福」の売上が大きい。

(No. 7 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大)

(松下委員)

キジは、卵から精肉になるまでどのくらいの時間が掛かるか。

(今西地域支援企画員（総括）)

概ね8～9ヶ月ぐらいで出荷出来る肉になっている。

(No. 17 「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進)

(森山委員)

原木増産に取り組んでいる。全国的にも原木の海外輸出が進んでいる中、海外の安いコストで製材品になって日本に返ってきている実態があるようだが、県が把握している情報があれば教えて欲しい。

(谷内須崎林業事務所振興課長)

県産集成材が中国で加工され、6割から7割の単価で日本に入ってきている。また、中国で加工された日本産ヒノキ製品が低価格で韓国に流れているが、現在のところは日本製の品質の高さにより日本製が好まれている。しかし、中国製の品質も上がってきており、厳しい状況になりつつある。

(No. 35 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化)

(松田委員)

浦ノ内方面で観光の取り組みを進めているが、地元の宿泊施設は充足しているのか。

(森田地域産業振興監)

宿泊施設については、オリンピック・パラリンピックの事前合宿や外国人観光客の受入に取り組んでいる中で、ホテル誘致の取り組みや民泊の推進など、受け皿をしっかりと作っていくことが必要という認識で須崎市と一緒に取り組みを進めている。

(No. 28 大正町市場商店街活性化事業)

(西岡委員代理)

大正町市場では高齢化によって事業者が減少してきており、次の担い手づくりが大きなテーマとなっている。昨年、商工会内で地域ブランド研究会を立ち上げ、その取り組みにより新しい空気も入ってくるようになった。現在、県の地域の頑張る人づくり事業を活用して商品開発や販路開拓等の勉強をしており、いずれは地域アクションプランになるような事業にしたい。

(森田地域産業振興監)

県としても、町と一緒に商工会の取り組みとしっかり連携し、後継者などの人材育成により商店街の活性化に向けた取り組みを支援してしていきたい。

(3) 産業成長戦略について

意見交換等、特になし。

(以上)